

白藍塾オリジナル

2019入試小論文分析&解答のヒント

2019年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 早稲田・スポーツ科学部

昨年度と同様、課題文や資料はなく、通常のテーマ題とも違っている。今年度は、大人になると「かくれんぼう」で遊ばなくなるのはなぜかを論じることが求められている。

じゃんけんの新しいルールを考えることが求められた昨年度の問題に比べれば考えやすいとも言えるが、やはりほとんどの受験生がとまどうことだろう。ただし、もちろん、自分の体験談などを書いても意味はない。

スポーツ科学部である以上、何らかの形でスポーツの問題と結びつける必要がある。すると、多くの大人は、かくれんぼうなどの代わりにスポーツをやって遊ぶようになるとも言えることがわかる。では、かくれんぼうなどの子どもの遊びと、スポーツとの違いはどこにあるのか。

重要なのは、子どもの遊びが無償のものなのに対して、スポーツには厳密なルールがあり、何らかの目的（勝利、健康、ストレス発散、社交など）がある、という点だろう。学生の部活動であれ、社会人が余暇にやるスポーツであれ、スポーツがスポーツとして成り立つためには、何らかの形で社会性が要求される。要するに、大人になって社会性が要求されたり、それが身についたりするにつれて、目的やルールのないこと（子どもの遊び）に関心が向かなくなり、そこから離れてしまうわけだ。

さらに言うと、サッカーのようなスポーツも、初めはルールらしいルールもなく、人数も適当で、お祭り騒ぎに近いものだったと言われる。それが、近代以降、ルールが整備され、「紳士のスポーツ」と言われるようになって、今のような洗練されたスタイルになった。大人がかくれんぼうをやらなくなるというのは、そうした社会全体の近代化、価値観の変化も反映されている可能性がある。

そうしたところまで論を掘り下げることができれば、かなり説得力のある内容になるだろう。

いずれにせよ、問題の内容がどうあれ、近代スポーツの考え方やその社会的背景などとしっかりと結びつけて論じることができれば、十分合格できるレベルになるはずだ。

書き方としては、第1部で大人になると「かくれんぼう」で遊ばなくなる理由を簡潔に示した上で、第3部でその背景などをくわしく説明する形にするとよいはずだ。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>